

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

7/1 統括センター化・ 兼務発令に反対します！



動労千葉
渡辺剛史書記長

闘う力で鉄道を守る

JR東日本はコロナで数値目標を前倒ししようとしています。その中で行われているのが業務融合化であり統括センター化です。

7月1日には乗務員と営業統括センターの兼務が始まり、運転士・車掌に駅の仕事もさせようとしています。鉄道部門4千人削減の攻撃です。

4月26日の日経新聞で「JR東日本は鉄道を持つIT企業に

7月1日、鴨川・成田統括センター化と千葉・蘇我・佐倉運輸区の（営業）統括センターとの兼務化が強行されようとしています。昨年3月に統括センター化された木更津運輸区...を含めて、全運輸区を駅業務と融合化・兼務化させるものです。

なる」と打ち出されました。

私たちはIT企業に就職したわけではありません。鉄道会社に就職したんです。

すべての労働者は自分の仕事にプライドを持っていると思います。乗務員に片手間で駅の仕事やグループ会社の仕事をさせるのが今の攻撃です。

運転職場では若い社員が悲鳴を上げています。融合化で行路の中に「その他時間」が設定され、駅の仕事をさせられています。その中で離職率が上昇しています。グループ会社も含めて要員がひっ迫しています。

私たちの闘う力で鉄道を守り、前に進んでいきます。私たちは鉄路に生きる。闘う労働運動を共に復権させましょう。

（6/18国鉄集会での発言より）

今年3月ダイ改では、行路内に「その他時間」が設定されました。すでに駅業務や企画業務などを行わせることが始まっています。

乗務員を「何でも屋」のように扱う会社の攻撃に、職場からは「頭が変になりそう」という声も上がっています。

統括センター化・兼務化はこうした攻撃をさらに激化させるものです。

こんな乗務員をないがしろにする施策は絶対に許せません。会社の攻撃を打ち破る力は職場からの声と闘う労働組合の力です。